

## アユの漁獲と資源状況について

### 1 アユ苗の漁獲状況(6月24日現在)

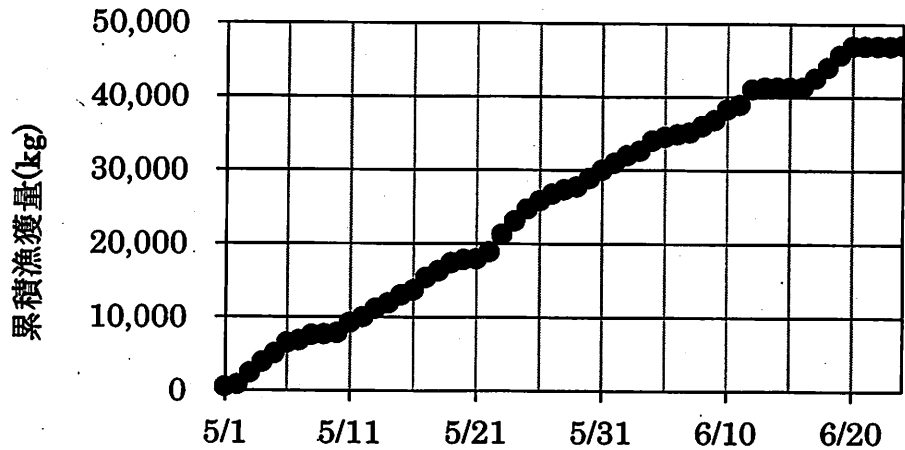


図1 5月～6月のアユ苗の累積漁獲量

#### ① 5月の状況

- 5月期の総漁獲量は30,076kgで、概ね平年の9割。
- 注文量はほぼ充足。

	エリ	ヤナ	追さで網	計
R元年5月	6,922	19,676	3,478	30,076
H30年5月	4,714	29,566	1,001	35,281
H21～H30 5月平均	11,454	19,199	3,132	33,785

#### ② 6月の状況(6月24日まで)

- 6月期の累積漁獲量は、17,091kgで、概ね平年の9割。

	エリ	ヤナ	追さで網	計
R元年 6/24まで	129	583	0	712
H30年 6/24まで	135	497	0	632
(参考:H21～H30) 6月の1日平均漁獲量	347	463	11	822

#### ③ アユ漁獲状況の聞き取り(6月)

- エリ漁での漁獲は、北湖の北部では平年並みという漁協が多いものの、北湖の

南部では漁獲が低調で、昨年よりも漁獲量が少ないという漁協もある。例年6月に入るとエリ漁ではアユ苗の注文量は少なく、漁獲されたアユの大部分は鮮魚用出荷となっている。

○ヤナ漁の漁獲は、河川水量に左右されることが多いが、降雨後は平年並みの漁獲となっている。魚体サイズは、大きいものが主体となっている。

○小糸網漁は、昨年よりも漁獲状況はよいが、日によってばらつきがある。

○アユ沖すくい漁は6月1日から始まり、解禁当初は特に好調な状況であり、その後もますます好調が続いている。

## 2 アユの資源状況

### ①周回コースによる魚群調査結果

○6月期は6月11日、12日に実施。

○3月までは平年比38%以下と少なかったが4月以降平年並みとなった。

○6月の魚群数は611群で、不漁であった平成29年の3.7倍、昨年の2.1倍で、平年の652群と同レベル（平年値比94%）となった。

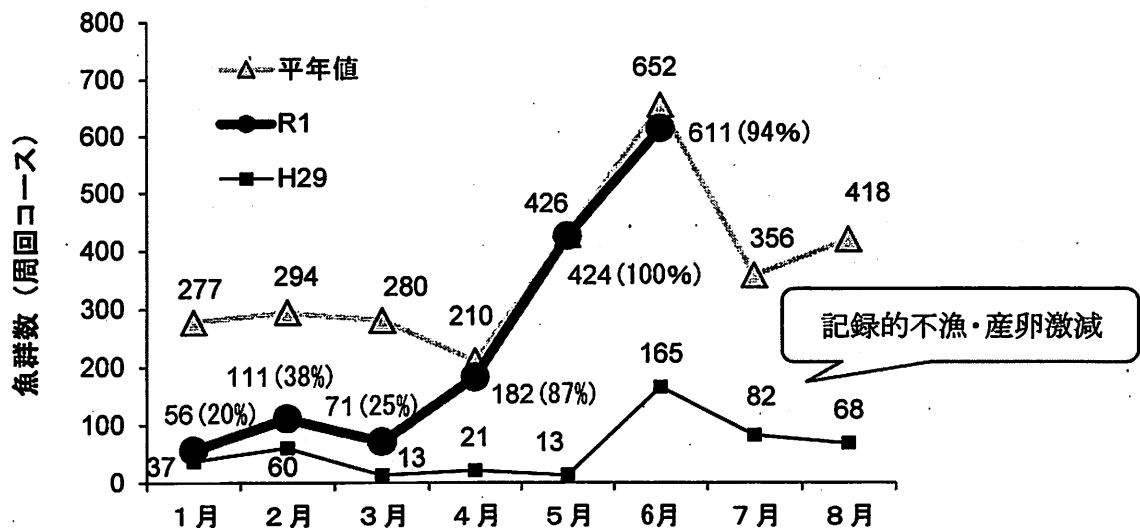


図2 魚群数(周回コース)の推移の比較

※平年値：過去10年間の値のうち、最大と最小を除いた8年間の平均値

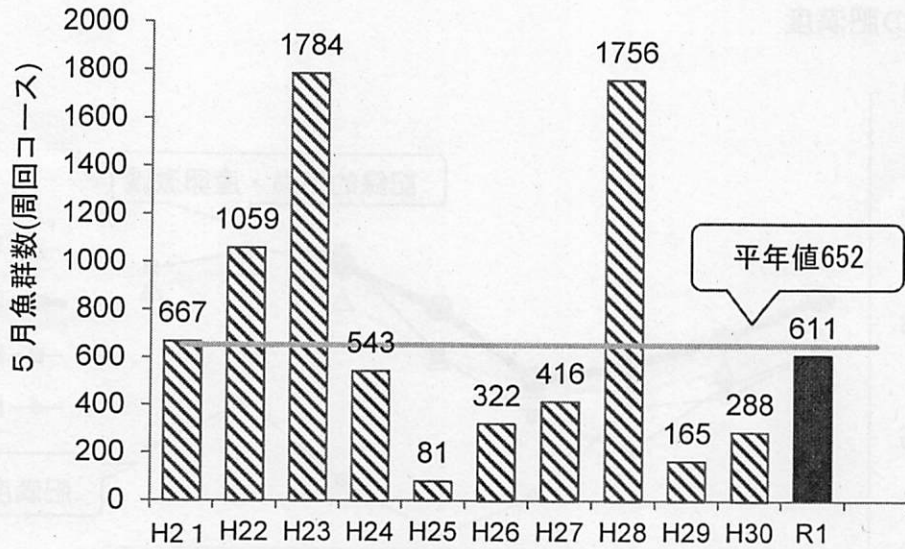


図3 5月魚群数(周回コース)の比較

②アユの体長

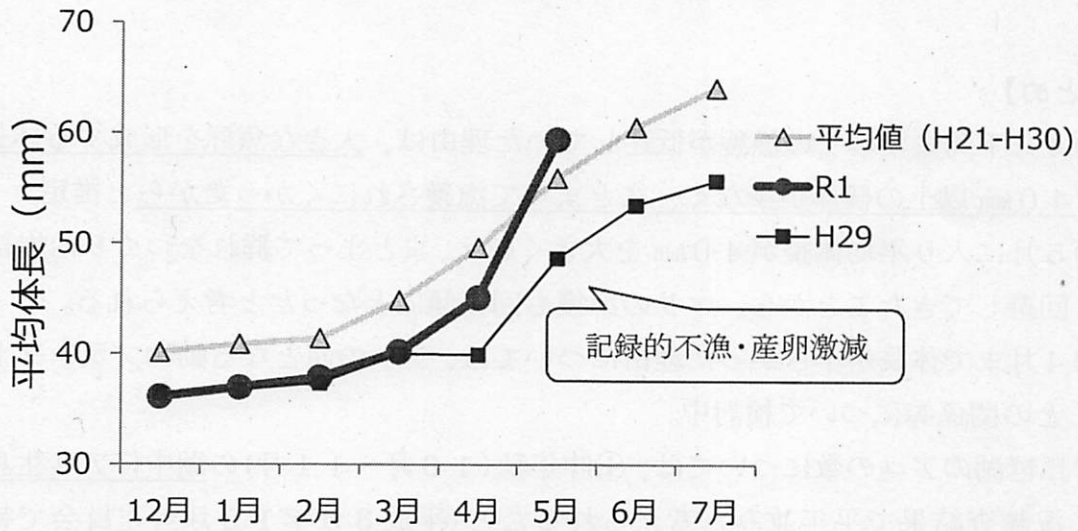


図4 エリ漁獲アユの平均体長の推移の比較

- 今シーズンは、4月までは平均より小さく推移し、3月までは記録的不漁であった平成29年シーズン(平成28年12月～翌年8月)と同等の推移。
- 4月から5月にかけての伸びが大きく、5月の平均体長は平均を上回る59.4mmに回復し、平成29年3月～4月のような停滞はみられない。

### ③ アユの肥満度

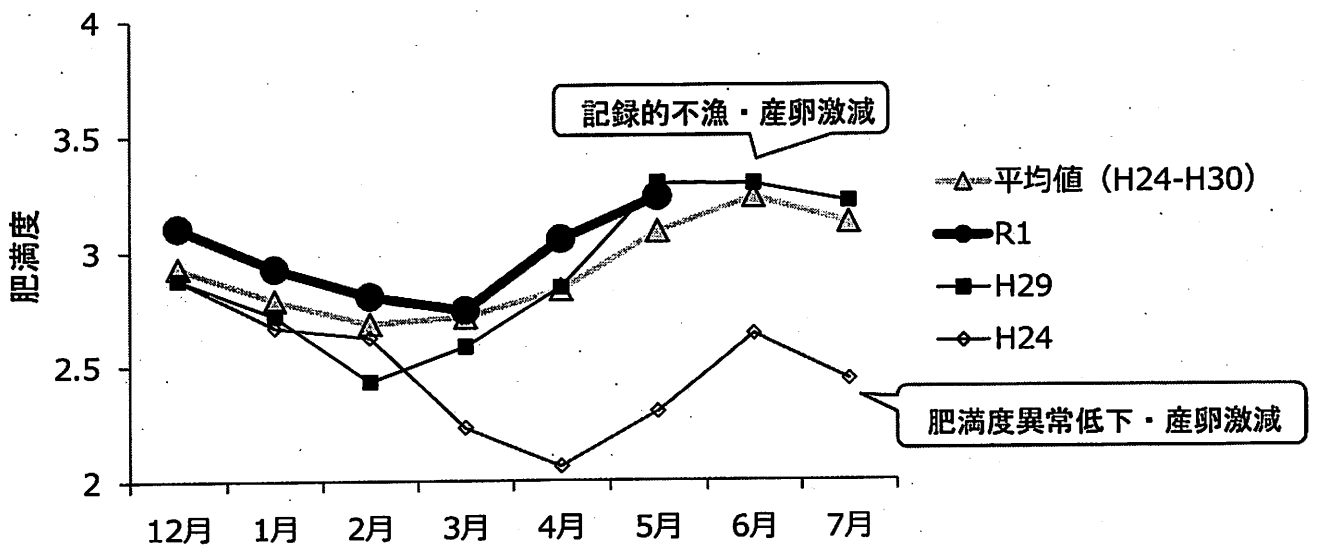


図5 エリ漁獲アユの肥満度の推移の比較

○今シーズンは、平均値よりやや高く推移し、栄養状態は良い状況。

#### 【まとめ】

- 4月下旬までエリの漁獲が低迷していた理由は、大きな魚群を形成する体長40mm以上の個体が少なく、まとまって漁獲されにくかったからと推定。
- 5月に入り平均体長が40mmを大きく超え、まとまって群れをつくり沿岸部に回遊してきたことから、エリの漁獲も回復傾向となったと考えられる。
- 4月まで体長が小さかった理由については、アユの餌となる動物プランクトンとの関係等について検討中。
- 琵琶湖のアユの数については、①昨年秋(10月～11月)の湖中仔アユ生息状況調査結果で平年並みと考えられること(平成30年12月当委員会で報告済)、②その後の冬季の水温は平年より高く、肥満度も平年よりやや高いため、低水温による冬季の減耗は考え難いこと、③成長に伴い魚群数が増加し、平年並みとなったことから、今シーズンのアユ資源は漁獲対象および産卵親魚ともに確保されていると推測している。

### 3 今後の対応

- アユの耳石解析による成長状況(成長履歴)の調査
- アユの餌となる動物プランクトンの調査
- これらにより、アユが4月まで小さく推移した理由の解明と、引き続き資源の評価を実施